



2011年秋の教養講座

『講演とピアノ演奏 モリス・ラヴェル～仮面を被った音の魔術師～』を終えて

会員 藤村 久美子



ある作品を演奏する時、その作品が生まれたいきさつや、その歴史的背景にはとても関心をもつもので、あの手この手でこうしたことを探ろうとします。大概の場合はずんなりと進むのですが、モリス・ラヴェルの場合、作品と人格の間の不連続性というか非常に大きな屈折があり、極めて難解です。しかしそれだけに不思議な魅力を感じ、その由って来るところをもっと深く知りたいと深みにはまってゆくことになります。

私がラヴェルのピアノ作品に初めて接したのは連弾曲「マ・メール・ロア」(マザーグース)でした。子供が大好きだったラヴェルが童話をベースにして五つの組曲として作曲したのですが、私にはちょっとしたカルチャーショックでした。それは題材こそ童話ですが、完璧に洗練された大人の世界でした。見事な色彩感、構築性それに秘められた官能さえ感じられる、単なる無邪気な子供の世界を凌駕してしまっていました。



ラヴェルのピアノ作品はピアニスティックには創られておらず演奏者には苦行僧のような修練を求めますが、彼はピアノという楽器をとおりに越してはるかかなたを目指していたのではないかと思います。

機会あるごとに独奏曲は勿論、三重奏曲、声楽曲、ヴァイオリン曲そして晩年の傑作二つの「ピアノ協奏曲」までほぼすべてを体験しましたが、私にとってなかなか到達し得ない高みへとはい上がろうとする精神的にも技術的にも苦難の連続ともいえるものでした。

【作品は人なり】といいますが、この言葉に意識的にベールをかけ見えにくくした人、ラヴェルは極めて羞恥心が強く、自分の内面を気取られぬようさまざまな仮面をつけてはぐらかそうとした人だったということが長い探究の末にわかったことです。

生前語られた自身の語録「心があるのをみせようとして、胸を開いてみせることはない」「わたしの曲を解釈してほしいとは思わない、ただ演奏してほしいだけ」という言葉にもそれを読みとることができます。

「ボレロ」を始めとする数々の名曲にはラヴェルのこの人間性、風変わりな作曲姿勢に裏打ちされた[仕かけ]がひそんでいたのです。

この間、フィギュアスケートで「ボレロ」をジャズ風にアレンジしていました。この編曲ラヴェルはどう思うかしら?と思ひながら、先日の講座を思い出していたら、ふっとある矛盾を感じました。根掘り葉掘り調べ、またそれを大勢の人の前で話題にされること・・・これこそラヴェルが嫌だったことかも。ラヴェルが大好きな私としてはちょっと申しわけないことをしてしまったような妙な感覚にとらわれてしまいました。

ラヴェルの生き方、平和へのアピール

浜 朝子

この日は、大宇陀にお住まいのピアニスト藤村久美子さんの演奏を、フランス料理をいただきながら楽しめる会ということで参加しました。実際には、演奏された曲とともに作曲家モリス・ラヴェルをめぐる勉強の時間がたっぷりあり、充実したひと時を過ごさせていただきました。

大宇陀では、このような藤村さんの活躍を応援しているファン達が沢山おられることを知りました。テクニックが高度すぎて作曲家自身でさえ上手く弾けなかった曲を、苦もなく流れるように演奏されました。その合間にはスクリーンを使って、あまり知られていないラヴェルの生涯、生き方を様々な角度から解説され、「教養講座」にふさわしい内容でした。



演奏会と食事が終わってから、藤村さんの恩師で90歳を超えた北原道彦先生がご挨拶をされました。その内容の核心は平和への強いアピールでした。ラヴェルが第一次世界大戦に巻き込まれ、からくも命を救われたことが藤村さんの解説にもありましたが、北原先生もまた、そのような苦難の時代を乗り越えられたそうです。私達庶民の生活の大切さ、命の尊さを思い起こさせる貴重な演奏会となりました。藤村さんの次のピアノ演奏会を是非聞きに行きたいと思います。

名句の花束 (18)

副会長 三野 博司 (奈良女子大学教授)

L'essentiel est de bien faire son métier (2)
 いちばんたいせつなことは自分の務めを果たすことだ
 カミュ『ペスト』1947年

「名句の花束」(2) および(3)において紹介した『シーシュポスの神話』は、「幸福なシーシュポスを思い描かねばならない」という句によって結ばれていました。しかし、たとえシーシュポスがみずからの反抗を通じて幸福を獲得したとしても、それは彼ひとりだけのものであり、孤独な幸福にとどまっています。『ペスト』において、カミュはそこから一步を踏み出すのです。1942年、ナチス・ドイツ占領下のパリで『異邦人』と『シーシュポスの神話』が刊行され、29歳のカミュは一躍文壇に名が知られるようになりますが、このとき、彼はすでにペストを主題とした小説の構想をあたためていたのです。

その3年後、レジスタンスの体験を経て、1945年に発表された『反抗に関する考察』において、カミュは、反抗の動きは個人的運命を越え人間の連帯へと達するものであり、そのとき「これまで、たったひとりの人間が感じていた悪が集団的ペストとなる」と書いています。やがて完成される小説のなかに、集団的ペストとなった悪にたいする堅忍不拔の反抗と、この反抗を通じて獲得された人間の連帯が描かれることとなります。

一九四六年八月、『ペスト』が完成し、翌四七年六月に刊行されるとベストセラーとなり、批評家賞を受賞しました。この病疫に襲われた町の物語において、構想段階からペストは戦争のアレゴリとしてあらわれていました。ナチズムは当時「褐色のペスト *peste brune*」と呼ばれていたのです。のちにカミュ自身が、この物語は「ナチズムにたいするヨーロッパの抵抗の闘いを明白な内容としている」と述べています。だが、それだけではありません。これはあらゆる専制政治に対するレジスタンスの物語であり、人間を襲うすべての災禍と悪に対する不撓不屈の闘争の物語なのです。

『ペスト』が提示しているのは、平時ではなく戦時のモラルです。人類が巨大な災禍と闘うとき、どのようなモラルが可能なのか、その思考実験の作品であるということもできます。そのモラルは、主としてこの物語の語



り手でもある医師リュウによって体現されますが、彼自身は、新聞記者ランベール、社会運動家タルー、神父パヌルーといった人物たちとの対話を通じて、自分の立場を確認していくのです。

名句として掲げたのは、全五部から成るこの小説の第一部第四章、アルジェリアの町オランにペストが蔓延しはじめる時期におけるリュウのことばです。これからの困難な闘いにたいする心構えの表明であると言えます。

同じ内容のことばを、リュウはもう一度、第二部第九章において、今度はランベールを前にして言うこととなります。この2人の対話では、個人の幸福と集団への責務のどちらが優先されるのかが問われています。オランの町から抜け出してパリの恋人のもとに戻ろうと執拗な試み続けるランベールは、ヒロイズムを信じないと言います。それに対してリュウは、彼らが力を合わせて、生命の危険を冒してペストと闘うのは、ヒロイズムとは関わりのないことだ応じます。

リュウによれば、「ペストと闘う唯一の方法、それは誠実さ (*la seule façon de lutter contre la peste, c'est l'honnête*)」であり、彼の場合には「誠実さとは自分の務めを果たすことだ (*elle consiste à faire mon métier*)」と述べるのです。

このあと、ランベールは、町から脱出する手立てを見つかるまで、リュウたちと一緒に保健隊で働くことを申し出るようになります。彼もまた自分の果たすべき務めを発見したのです。

Junko のパリ便り (4)

～パリ近郊のテーマパーク～

高橋 潤子

久しぶりに遊園地に行ってきた。

パリ近郊にはいくつもテーマパークが存在する。一番有名で一番規模が大きいのはディズニーランドで、パリのガイドブックには必ず載っているし、RER (郊外線) の駅を降りてすぐ、空港からだ TGV で直接行くこともできる。ホテルや店も充実しており、ほとんどの施設が閉まっているクリスマスやお正月にも開いている。入場料にはすべてのアトラクション代が含まれているので、何でも乗り放題だ。しかし人が多くて待ち時間も結構あるし、至る所にディズニー・グッズがあるので、子連れで行くといくつもキャラクターグッズを買わされる羽目になる。

年齢が低い子向けには、Mer de Sable という、アメリカ西部をイメージした遊園地がある。比較的穏やかなアトラクションが多く、家族で楽しめると感じる。値段もかなりお手頃である。ただし、4月から9月までしか開いていないのと、アクセスが車でないと難しい場所なのが難点だが、家族旅行でレンタカーを利用される予定があるなら、行ってみても損はないのではと思う。幼稚園や小学生ぐらいなら十分楽しめる。ブローニュの森にある遊園地 (Jardin d'acclimatation) も、年齢が低い子にはちょうどいい。メトロの駅から歩いて行けるし、入場料も300円ぐらいだ。乗り物に乗るにはその都度チケットが必要だが、無料の遊び場やちょっとした動物園もある。



フランス・ミニアチュールというのものもある。これはフランスの形をした広い敷地内に、各地方の主だった建築物を配置したもの。TGV が走ったり、僧院からは聖歌が聞こえてきたりと、細かいところにも凝っている。ちょっとした遊園地も併設されているが、一日でフランス一周ができるというところが面白いし勉強になる。

さて、今回行ってきたのは Parc Asterix というテーマパークだ。日本ではあまり知られていないが、アステリックスというのはフランスの漫画の主人公で、アニメ映画や実写にもなっている国民的ヒーローである。シーザーが征服したガリアで唯一抵抗を続ける村の戦士がアステリックスで、親友のオベリックス (メンヒルの配達人) と共に数々の冒険をするという人気シリーズだ。言葉遊びやギャグが満載で訳しにくいせいか、日本語版は出ていない。

Parc Asterix はパリの北部にあり、空港やパリ中心部から直通バスが出ている。ディズニーランドよりも規模は小さいが、その分回りやすいし、絶叫系のマシンから小さい子向けのものまで充実している。本来11月から3月にかけては休みなのだが、Arbre de Noël ということで特別に開いていた。Arbre de Noël とは企業の福利厚生行事の一つで、社員互助組合 (Comité d'entreprise といい、社員50人以上の会社には設置が義務付けられている) が主催して行われる。主に社員の子供たちにプレゼントをしたり、家族が参加できるパーティーを行ったりするのだが、旦那の職場 (警視庁) では今回 Parc Asterix を貸し切って、警官の子供たちへのクリスマス・プレゼントにしたのだ。会場では一人一人にプレゼント (アステリックスのイラスト入りのクッション) が渡され、入場料はもちろん無料となる。アトラクションの入り口にベビーカーなどがいくつも放置されていたが、さすがに泥棒はいないと考えたのだろうか。また空港から遊園地に行くバスも乗客は警察関係者ばかりだったせいか、席につくと同時にあちこちでシートベルトを締める音がして笑ってしまった。

遊園地で Arbre de Noël というのは、お金がかかりそうで、実は双方にとって得なのかもしれない。貸し切りにするだけで一人当たりの単価を安くしてもらえらるだろうし、遊園地側にとっても確実な売り上げになるうえ、大いに宣伝にもなる。実際、うちの子供たちも Parc Asterix がとても気に入ったらしく、「今度はいつ行くの?」と毎日のように聞いてくる。丸一日遊園地で過ごして疲れ果てて帰ってきた私は、当分遊園地は勘弁してくれと思いつつも、「また今度ね、バカンスの時ね」などと言ってごまかしているのだ。



ボジョレー・ヌヴォーの夕べはシャンソンに華やぐ



副会長 濱 恵介



11月22日の18時半から、新大宮のカフェテリア「サンフラワー」で、奈良日仏協会のイベント「ボジョレー・ヌヴォーの夕べ」が開かれた。会場のコーナーには森井さんの庭から届いた美しいバラの花。そして中央には、Roi de Beaujolais (ボジョレーの王様)とも称される Georges Duboeuf の150樽が鎮座する。木の栓を開き、ルビー色の新酒がグラスに注がれ参加者に次々と渡される。三木理事の司会、坂本会長の挨拶と乾杯のご発声で会が始まった。美味い！なごやかな雰囲気です。暫し飲食と歓談。

いよいよ梨里香(リリカ=会員、中辻純子)さんのシャンソンが始まる。伴奏CD・音響装置も準備万端。最初の曲は「パリの空の下」Sous le Ciel de Paris、勿論フランス語で。シャンソンはやはりフランス語で歌い聴くのがよい。雷雨のあと虹がかかるパリの空を思い浮かべる。二番目が「枯葉」Les feuilles Mortes、数あるシャンソンの中でも最も有名なものだろう。イヴ・モンタン調のしびれる歌声、そして季節にぴったり。失恋の気持ちを振り払うように次は、「ばら色の人生」La Vie en Rose。エディット・ピアフ



の代表作。その次もピアフの持ち歌「パダンパダン」Padam Padam。パダンパダンというのは一体何？足音、それとも心臓の鼓動？ その後はちょっと趣向を変えて、中島みゆきの「地上の星」をまず日本語で、続いてフランス語訳で歌う。NHK テレビのプロジェクトXのテーマ曲だったから、なじみがある。そして最後は、バルバラの「いつ帰ってくるの」Dis, quand reviendras-tu?。バルバラらしい軽妙なメロディーに乗って、切ない女心を歌い上げる。おまけの一曲(アンコール)は、「愛の賛歌」Hymne à l'Amour。愛づくしの名曲シャンソン・コレクションを情感豊かに締めくくった。梨里香さんの素晴らしいパフォーマンスに盛大な拍手。

引き続きボジョレーワインと食事を楽しみながら、思い思いのコーナーで会話が弾む。会長からの指名で参加者、特に新しい会員や入会予定者等の紹介と各人からのご挨拶があった。デザートとして注文したマカロン(岩崎能久さんの店 KARAKU 特製)はしっとり甘く、très très délicieux。



楽しく華やいだ雰囲気の方、東北では今なお不安と苦しみが続いているのに、我々はこんなに楽しんで良いのだろうか、という思いが心をよぎる。中止となったお花見の会の埋め合わせ、という位置づけもあったが、内心うしろめたさを感じてしまった。

締めくくりは、三野副会長からの「今年は大震災に経済危機と大変な年だったが、来年こそ良い年になることを期待したい」というご挨拶で閉会となった。参加者は26名。



準備全般を取り仕切った中野さん、ワインと料理一式を調達した樋口さん、音響装置の準備と司会を担当した三木さん、それぞれに大変ご苦労様でした。また森井繁夫さんには、丹精込めたバラのご提供、ありがとうございました。

～初めて参加して～

会員 只野 正隆

ボジョレー・ヌヴォーの夕べは、フランスに関わろうと今年の夏に奈良日仏協会の門を叩いてから初めてのイベントでした。初めてということだったので少し緊張していましたが、おいしいボジョレー・ヌヴォーと食事、そしてなによりあたたかな皆様との出会いで楽しく過ごすことができました。今から来年の解禁が楽しみです。

第26回 奈良日仏協会シネクラブ開催

～ピエールさんとセルジュさんを迎えて～

理事 浅井 直子

かつて、フランス語講座や映画講座の講師はじめ、シネクラブ再興者として、奈良日仏協会に多大な貢献をしてくださったピエールさん、現在は拠点をパリに移しましたが、映画撮影の仕事で日本とフランスを行き来しながら、日仏文化交流の架け橋となっております。

今年3月の震災後、日本文化と日本人の素晴らしさを再認識したというピエールさん。今回シネクラブの例会に駆けつけてくれた参加者のみなさんと交流することが出来て、感慨もひとしおだったそうです。あらためて奈良への愛着を深め、来年度からは奈良日仏協会の会員に復帰して下さるとのこと、頼もしいかぎりです。

今回はピエールさんの友人で、ミシュラン社やアシエット社のガイドブックのライターをされているセルジュさんが、解説に加わってくださいました。ピエールさんとセルジュさん、二人ともパリ20区の住人であるだけに、今回の映画とその背景にあるフランスの社会状況について、具体的な事例をまじえて、いつにも増して熱のこもった話しぶりでした。懇親会では、映画の中で個性的な女の子の役を演じていたクンバを小さい頃から知っていて、彼女にフランス語と数学を教えてあげていたというピエールさんの個人的なエピソードを聞き、ほろりとさせられました。

セルジュさんは2005年に初来日された時、当時「らんぷり～」で開催された奈良日仏協会のフランス人との交流行事に参加してくださいました。15、6歳の頃、地元ニースの書店の本棚にあった日本のガイドブックの浮世絵や日本庭園や建築物の写真を見て、それらの簡素な美的様式に惹かれ、日本に憧れを抱くようになったというセルジュさん、今回は4度目の来日ですが、今や奈良は、自分にとって心のふるさとになりつつあるそうです。



◆シネクラブ『パリ20区、僕たちのクラス』に参加して

会員 杉浦 三千代

様々な民族が混在しているパリの20区の、ある中学校の新学期から物語が始まるのですが、まさに「学級崩壊」を彷彿とさせる状態に最初から驚きの連続でした。出身国・宗教・生活文化が異なりフランス語もままならない親、不法滞在の親を持つ生徒、他校で退学になった転校生。多種多様な問題を抱え込んでいて、さらには心と体のアンバランスな思春期のただ中にある彼らを、担任の国語教師はいったいどのように接し、どんなクラスにしていくのか？ 生徒達の「イラつき」のエネルギーは、授業中に遠慮なく発散される。時には暴力を伴い、時には教師の資質を試すかのように。教師と生徒が丁々発止と渡りあうところは、ドキュメンタリーかと思ふほどの迫力で見る者を魅了し、画面に釘付けでした。

そんな彼らが時おり垣間みせるシャイでやさしい心に、ほっとさせられました。そしてこの中学校の教師達は何と素晴らしいのだろうと、感心させられました。クラス担任は一人一人と真正面から向き合い、決して逃げたりしない、見て見ぬふりもしない、悪いことを悪いと毅然とした態度で迫る。時には挫折しそうになりながらも、美しい国語を懸命に伝えようとする真摯な姿に心打たれます。彼自身がこの物語の原作者であり、実際に国語教師であったということが、よりいっそうのリアリティーを伴わせるのでしょう。

学期末、生徒達は今学期に学んだことを、一人一人誇らしげに発表するのですが、「何も学ばなかった」という一人の生徒に対しても、教師は次の学期に希望をつなげようとします。次々と噴出する問題は解決しないけれど、決して暗さや失望は感じられず、明るいラスト。静かではあるが暖かい感動と共に、あっという間に128分が過ぎてしまいました。そして、まだまだ続きを見たいという思いにかられました。彼らがどんな大人になっていくのかも…。

映画終了後は、ピエール先生による大変丁寧な解説があり、この映画がドキュメンタリーではなく、入念に準備された「ドラマ」であること、このクラスでの出来事は、現代のフランスが抱えているあらゆる問題が、合わせ鏡となって映しだされていることなど、詳しく説明して頂き、より深く作品に触れることが出来ました。その後、参加者一人一人の感想に対して、一緒に参加して下さったセルジュさんとともに、丁寧に答えてくださり、フランス社会の現実の一面を知ることができました。本当に楽しく有意義なひとときでした。



会員 中田 由美子

シネクラブの例会は、ピエールさんの解説、鑑賞後の参加者のみなさんの解釈や感想を聞くことができるので、一人で見るのとは違って、学ぶこと発見することが多く、いつも楽しみに参加させていただいています。さまざまな人種・個性の集まるパリ20区、日本の中学とはかなり異なる授業風景です。子供たちはそれぞれの立場で教師に挑んできます。落ち込んだり、投げやりになったりする教師が多い中、原作者であり俳優であるベゴドーは、子供たちと正面から向きあって理詰めでも対話します。この対話(かなり早口)の場面は何回も出てきますが、とてもフランス的だし、素晴らしい教師だと思いました。最後のシーン、教師と生徒がいっしょになって楽しそうにフットボールする場面は、あれだけ反抗的な子供たちも先生に心を開いているところもあるのだなと、なんだかほっとしました。

会員 村田 公子

10月30日、学園前の西部公民館へ映画を見に行きました。かつて、奈良日仏協会のフランス語講座で、ピエール先生からグループプレッスンを受けていましたので、ピエール先生に再会できることを楽しみにしていました。私は先生のフランス語の教え方がとても好きで、みんなに目を配り、授業の進め方がうまくて、毎回あつという間に時間が過ぎていました。いつもとても楽しい授業でした。今回は、『パリ20区、僕たちのクラス』という映画を鑑賞しました。主人公の教師役の方が、トラブルがあった時も、正面からぶつかって、感情的にならず、冷静に生徒に対応していたことに、感銘を受けました。このようなトラブルは日本の学校も同じです。映画では、問題を起こした子供を退学させましたが、見ている最中には、日本の感覚で退学させないようにするのかと思いました。日本のドラマは、大体ハッピーエンドで終わりますが、フランス映画は現実そのまま終わることが多いような気がします。

《次回シネクラブのお知らせ》

第27回のシネクラブは、「子供」のテーマの第3回目として、ダルデンヌ兄弟の『ある子供』(L'Enfant, 2005年、カンヌ国際映画祭最高賞パルム・ドール受賞)を取り上げる予定です。

日 時 2012年2月12日(日) 13時~17時
 会 費 会員無料、非会員300円
 会 場 ワルハラ又は西部公民館(次号モンナラに掲載予定)
 問 合 せ 浅井直子 Nasai206@aol.com

第104回 フランス・アラカルト開催

～フランス・アラカルト：AJ-France代表のJ-J.トリュショー氏を招いて～

第104回フランス・アラカルトには京都のフランス語教室"AJ-France"の代表(CEO/President)、Jean-Jacques Truchot氏(パリ出身、1962年生まれ)を招いて、フランス滞在のおすすめ、フランスのいろいろな職業(シェフやパティシエや画家)の話、壁画やだまし絵(trompe l'oeil)について詳しく、とか、さまざまなフランスについての魅力的な話をうかがいます。

いつものようにマダム直子の手作りのケーキと選りすぐりの紅茶の香りを楽しみながら...

Jean-Jacques Truchot 氏のメッセージ：Je leur parler des sejours en France, pour etudier le francais mais aussi un metier, cuisinier, patissier ou specialite en peinture mural et trompe l'oeil et des pieges/difficulte qui existe pour realiser son projet dans de bonnes conditions.



日 時：2012年1月19日(木) 15時～
 会 費：会員1,000円、一般1,500円(お菓子とドリンク付き)
 場 所：カフェ「Mardi Mardi」(マルディ・マルディ)
 ※奈良市登美ヶ丘3丁目12-9 登美ヶ丘ビル1F (TEL/FAX:0742-44-5701)
 学園前駅からバス(110・128・129・130・138・260番)で7分、
 西登美ヶ丘二丁目バス停すぐ(駐車場あり) <http://mardimardi.exblog.jp/11477753/>
 問い合わせと申込み：奈良日仏協会 E-mail afjn_info@kcn.jp TEL/FAX 0743-54-0052

フランス生まれの手芸講座のお知らせ

◆カルトナーージュ レッスン◆

暮らしの中にフランスを感じる、フランス生まれの手芸講座。
 ご参加下さった皆様から、素敵な作品のコレクションが出来てうれしいと毎回大好評！
 「カルトナーージュ (Cartonnage)」とは、厚紙 (カルトン) を組み立てて、美しい布や紙を覆って作るフランスの伝統的な手工芸です。短い時間でどなたでも簡単に作れる上、生活の中で実際に使える作品を作れるというのがその人気の秘密。さまざまなものを作って、友人にさりげなく自慢しちゃいましょう！第3回目のレッスンは上品なモアレの生地と素敵なタッセルがエレガントなフォトフレームにチャレンジしていただきます。センスの良さが好評な尼川先生のレッスン。ご参加お待ちしております。

と き 1月21日 (土) 13時30分～15時30分頃
 と ころ カフェテラス サンフラワー
 奈良市芝辻町4丁目9-3 アルファビル1階
 近鉄新大宮駅下車 北へ徒歩5分(年金事務所南側)
 駐車場有(ご利用希望の方はお申し出ください)
 参加費 4,000円 (材料費、レッスン料込、1ドリンク付)
 定員 10名 (先着順)
 講師 尼川 香陽子さん



<プロフィール>

2008年より大阪、奈良、京都にて数多くのカルトナーージュを指導中。
 毎年パリにて直接購入される布や輸入生地をセンス良く、エレガントに使用されるレッスンが大好評です。

◆ 手芸講座の予告 ◆

“フレッシュフラワー、春色のパリスタイルアレンジ (花器付き)”

大好評のフラワーアレンジレッスン。今回は生花にチャレンジ！
 春に向けて花の種類も豊富なこの季節に、おしゃれなパリスタイルにアレンジ。
 ひと足早く、春を感じてみませんか？皆様のご参加お待ちしております。

と き 2012年2月25日 (土) 13時30分～15時30分頃まで
 と ころ カフェテラス サンフラワー
 参加費 4,000円 (材料費、レッスン料、1ドリンク付)
 持ち物 花ばさみ、持ち帰り用袋
 定員 13名 (先着順)
 講師 古川 さやか先生 (vert de gris flower 主宰)

～ お問い合わせ：参加申込み 手芸講座事務局 中野まで (090-7750-8570) ～

◆ 素敵な作品が出来ました ◆



クリスマスリースレッスン風景



カルトナーージュレッスン風景



2012 年総会と懇親会のお知らせ

日 時：2012年2月5日（日）

総 会 14時30分～

懇 親 会 15時30分～

場 所：天平倶楽部 TEL 0742-27-7275

奈良市今小路町45-1

近鉄奈良駅よりバス 2番のりば（青山住宅行き）今小路下車すぐ

駐車場有り

会 費 会員 2000円 非会員 3000円

* 後日、総会および懇親会の案内はがきをお送りします。

2011 年度 第 6 回理事会報告

日 時 2011年11月25日 15時00分～17時00分

場 所 グリーンホテル馬酔木 会議室

出席者 坂本会長、三野副会長、濱副会長、浅井理事、高尾理事、仲井理事、
中野理事、樋口理事、三木理事、森井理事

議 事①活動状況報告 *秋の教養講座 *ボジョレ・ヌヴォーの夕べ

*フランス・アラカルト*シネクラブ *フランス生まれの手芸講座

②今年度の活動全般を振り返る *2011年度活動報告案 *会計収支の概要

③モンナラ編集・発行 *次号入稿状況 *発行予定

④総会開催の計画および来年度・当面の検討課題 *開催日・場所 *活動方針

*役員改選の方針 *懸案事項への対処

⑤その他

皆様の投稿を常時募集しています！

モンナラでは会員の皆様の投稿を募集しています。論文、エッセイ、旅行記、最近の出来事、会員の皆様の活動などジャンルは問いません。なお、文章は、意味を変えない表現の変更等をさせて頂く場合があります。予めご了承下さい。奇数月20日が締切です。

Mon Nara Novembre-Décembre 2011 11,12 月合併号 Numéro247

奈良日仏協会 Association Franco-Japonaise de Nara

HP : <http://www.afjn.jp> E-mail : afjn_info@kcn.jp TEL&FAX 0743-52-3939

〒630-8691 郵政事業株式会社奈良支店 私書箱30号（郵便物）

発行責任者：坂本成彦

